



株式会社エネルギー・コミュニケーションズ

1. 活用推進者

情報システム本部

◆情報計画部

◆事務システム部

◆開発センター

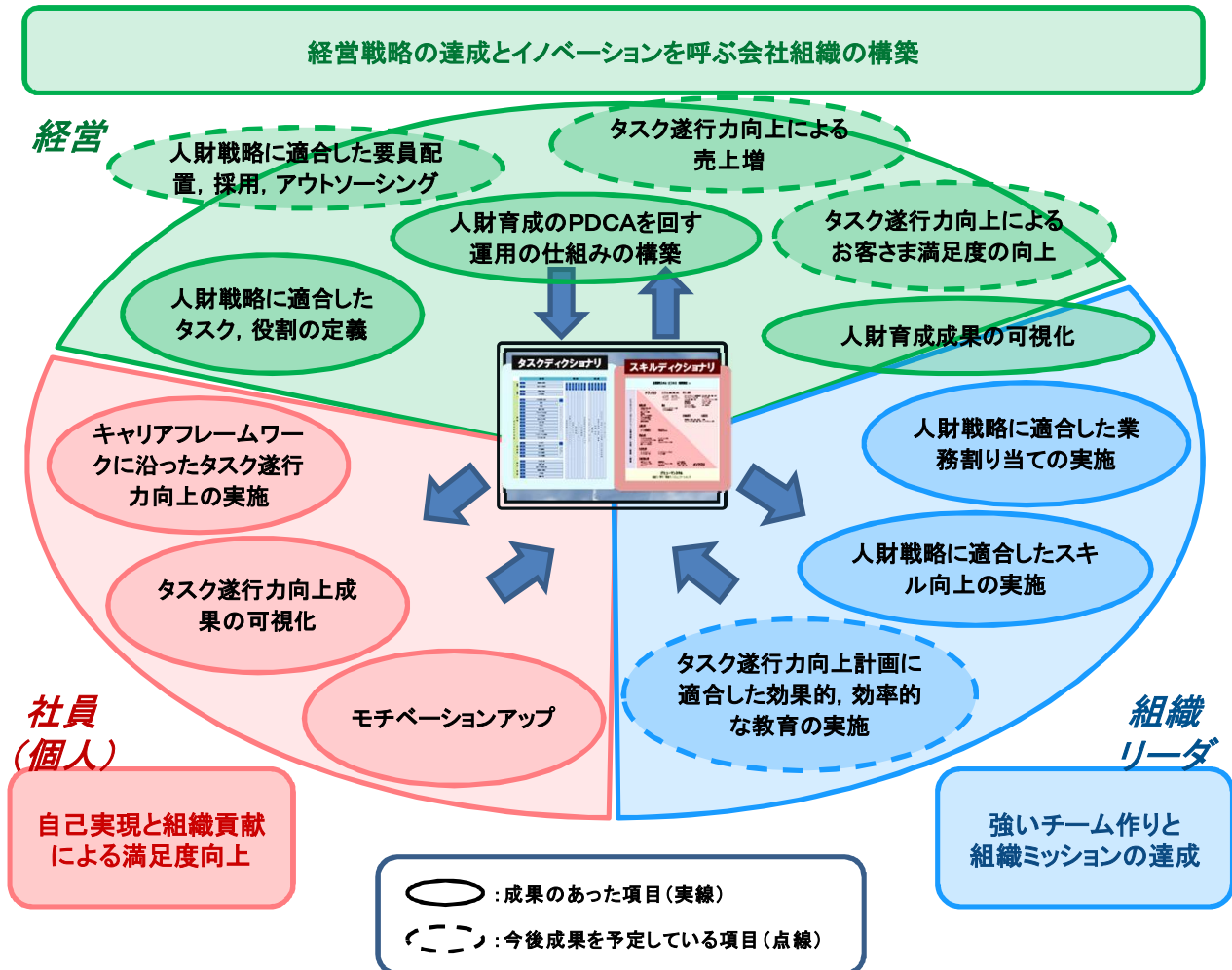
松尾部長, 時乗副部長,
伊藤サブマネージャー
鉄増マネージャー
原田所長, 田中マネージャー,
廣川マネージャー, 住田担当



2. 会社概要

- 社名 : 株式会社エネルギー・コミュニケーションズ(略称: エネコム)
- 所在地 : 広島県広島市中区大手町二丁目11番10号
- 設立 : 1985年4月1日
- 代表者 : 取締役社長 熊谷 鋭
- 資本金 : 60億円
- 社員数 : 933名(2016年4月1日現在)

3. iCD取組み効果



4. iCD取組みの効果及び今後予定する効果内容

4.1. 効果のあった項目	効果内容
人財戦略に適合したタスク、役割の定義	これまでは曖昧であった、将来必要となるタスクと役割を定義することで、人財戦略を明確化し、認識の統一を図ることができた。
人財育成のPDCAを回す運用の仕組みの構築	人財育成に関する計画策定から取り組み、評価、確認と修正に至るPDCAを回す運用の仕組みを、組織力強化と個人のタスク遂行力向上の視点で構築できた。
人財育成成果の可視化	iCD管理ツールにより、人財育成施策による成果(情報システム本部大)を数値で把握できるようになった。
人財育成成果の可視化	iCD管理ツールにより、人財育成施策による成果(各部署毎)を数値で把握できるようになった。
人財戦略に適合した業務割り当ての実施	組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスク遂行力を向上させるための業務を優先的に割り当てることができるようになった。
人財戦略に適合したスキル向上の実施	組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスクに関連するスキルを向上させるための施策(OJT、教育、自己啓発)を的確に実施できるようになった。
キャリアフレームワークに沿ったタスク遂行力向上の実施	キャリアフレームワークに沿った当年度のタスク遂行力向上施策を策定し、実施できるようになった。
タスク遂行力向上成果の可視化	iCD管理ツールにより、個人ごとのタスク遂行力向上施策による成果を、数値で把握できるようになった。
モチベーションアップ	将来のキャリアパスを描くことができ、また求められるタスクも明確になることで、自己の能力向上に対するモチベーションアップを図ることができた。

4.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
人財戦略に適合した要員配置, 採用, アウトソーシング	人財戦略に基づく人財ポートフォリオ構築に向けた要員配置、社員採用、アウトソーシングを実現する。
タスク遂行力向上による売上増	社員一人ひとりのタスク遂行力を向上させることにより、売上増を実現する。
タスク遂行力向上によるお客さま満足度の向上	社員一人ひとりのタスク遂行力を向上させることにより、お客さまからの信用信頼を高め、お客さま満足度のさらなる向上を実現する。
タスク遂行力向上計画に適合した効果的, 効率的な教育の実施	タスクとスキルを結び付け、スキル向上のために効果的かつ効率的な教育を実施する。

5. iCD活用に対する現場からの評価の声



経営者

- 中長期経営ビジョンの高い目標(売上増など)達成に向け、社内要員が持つタスク遂行力と不足するタスク遂行力が明確化され、目標達成への道筋がより明らかになった。
- 情報システム本部の人財戦力分布が可視化され、人財育成上の強化すべき領域が明確になった。
- 新規事業やプロジェクト発足時の要員異動において、メンバが果たすべきタスク要件を明示できるため、要員の選抜がしやすくなった。
- 担当者が自らのタスク遂行力をアピールでき、職場の活性化につながった。



現場リーダー

- 情報システム本部の人財戦力に沿った自組織の人財育成計画を、的確に立てられるようになった。
- 個人ごとに強化すべきポイントが明確になり、部下に対する育成指導がしやすくなった。

- キャリアパスや役割が明確に示され、自分の進むべき道を描きやすくなった。
- 自分の能力向上に必要なタスクやスキルが明確になり、目標設定や計画策定がしやすくなった。
- 自分の成長の軌跡が見えるようになり、モチベーションが向上した。



社員

6. iCD取組みの効果(1/5)

■効果項目:人財戦略に適合したタスク、役割の定義

【効果の概要】

これまでは曖昧であった、将来必要となるタスクと役割を定義することで、人財戦略を明確化し、認識の統一を図ることができた。

【具体的な効果】

- ・iCD構築プロセスの一つである「要件分析」を行うことにより、今後の事業戦略について経営層の考えを明文化できた。
- ・事業戦略の明文化により人財戦略が明確になった。
- ・将来必要となるタスク、役割を整理することができた。
- ・以上の検討を経営層、ライン部長を交えて行うことにより、上位職層の人財育成に対する認識の統一を図ることができた。

【関連資料】

【情報システム本部】役割概要	
2018.05.11 Ver02	
役割名称	役割概要
3 プロジェクトマネージャー	・プロジェクトマネジメント関連技術を活用し、ソフトウェア開発、インフラ(プラットフォームや通信など)構築に関わるプロジェクトの立ち上げ、計画準備、計画策定、実行・監視、最終実施し、計画された目標を達成する。
4 上級アプリケーションエンジニア	・業務知識ならびにソフトウェア開発やパッケージ導入に関する専門技術を活用し、主として要件定義、基本設計、総合テスト、導入・移行の各工程を実施する。 ・開発後のソフトウェアや、導入後のパッケージ製品の保守を計画する。
5 アプリケーションエンジニア	・業務知識ならびにソフトウェア開発やパッケージ導入に関する専門技術を活用し、主として詳細設計、受入れテスト、結合テストの各工程を実施する。 ・開発後のソフトウェアや、導入後のパッケージ製品の保守を実施する。
6 プログラマー	・ソフトウェア開発に関する専門技術を活用し、プログラム作成、単体テストを実施する。
7 ITサービスエンジニア	・ITシステム全体を安定稼働させるため、定められた手順に沿って、ITシステムの監視・操作および障害等の状況連絡を実施する。 ・オペレーション手順整備などを通じて、効率的かつミスのないオペレーション業務を維持する。 ・ITシステムおよびIT基盤全体に関する幅広い知識を活用し、システム担当と協調して業務影響を最小限に抑えるよう障害対応を行う。 ・運用運轉に関わる施設の運用、保守を行う。
8 上級インフラエンジニア	・インフラの構築に関する専門技術を活用し、主として要件定義(非機能要件含む)、システム構成設計、環境設計、運用設計、総合テスト、導入・移行の各工程を実施する。 ・構築後のインフラの運用・保守を計画する。
9 インフラエンジニア	・インフラの構築に関する専門技術を活用し、主として環境構築、運用実装、結合テストの各工程を実施する。 ・構築後のインフラの運用・保守を実施する。
10 データサイエンティスト	・お客さまのデータ活用の目的を施策、計画として具体化し、ビジネス活用を支援する。 ・データ活用の目標設定、結果の評価、モデル展開を行い、お客さまに優位性をもたらす戦略策定を支援する。

6. iCD取組みの効果(2/5)

■効果項目:人財育成のPDCAを回す運用の仕組みの構築

【効果の概要】

人財育成に関する計画策定から取り組み、評価、確認と修正に至るPDCAを回す運用の仕組みを、組織力強化と個人のタスク遂行力向上の視点で構築できた。

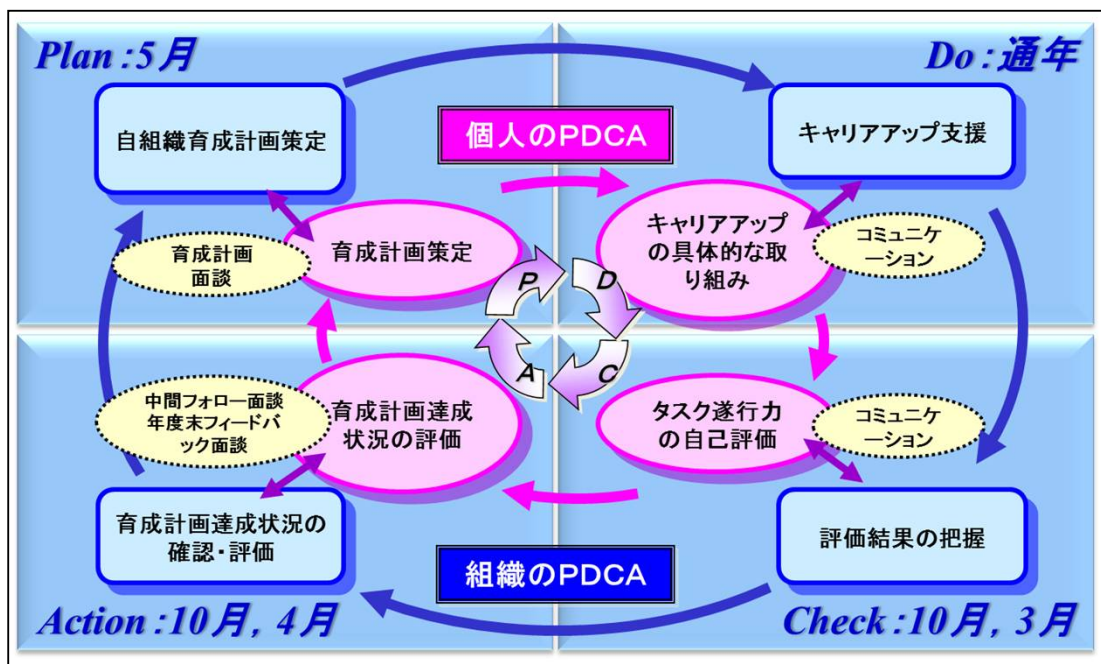
【経緯】

・情報システム本部として、「社員育成の進め方」を定めているが、具体的な運用手順が整備されておらず、効果的に機能しているとは言い難い状態であった。

【具体的な効果】

- ・ライン管理者向けの人財育成運用ガイドラインを定め、組織の人財育成に関する計画策定、育成実施、結果の評価、計画の見直しを繰り返し行うことができるようになった。
- ・一般社員向けの人財育成運用ガイドラインを定め、自身の育成計画策定、具体的な取り組み、タスク自己評価、達成状況の確認を継続的に行うことができるようになった。

【関連資料】



6. iCD取組みの効果(3/5)

■効果項目:人財育成成果の可視化(本部大、各部署毎)

【効果の概要】

iCD管理ツールにより、人財育成施策による成果(情報システム本部大、各部署毎)を数値で把握できるようになった。

【経緯】

人財育成の成果を客観的に評価するための基準が定まっていない状態であった。

【具体的な効果】

iCD管理ツールを活用することにより、役割毎のタスク遂行力やタスク毎のランクを組織別に把握できるため、過去分との比較により人財育成の成果を数値で出せるようになった。

【関連資料】

役割	部門分類	タスク遂行力					合計	
		Level1	Level2	Level3	Level4	Level5		
メールエンジニア	-				0	0	0	3
ITヘルプデスク	-				0	0	0	3
ラボシステムエンジニア	-				1	2	1	4
上位アプリケーションエンジニア	-				1			12
アプリケーションエンジニア	-							28
プログラマー	-	1	1	1				42
システムエンジニア	-		1	1	2	0		32
上位アプリケーションエンジニア	-		1	1	1			3
アプリケーションエンジニア	-	1	1	1	1			14
データベース	-				0	0	0	3
ネットワークエンジニア	-	0	0	0	0	0	0	3
サーバエンジニア	-	0	0	0	0	0	0	3
組み込みシステムエンジニア	-	0	0	0	0	0	0	3
ネットワークエンジニア	-	0	0	0	0	0	0	3
データベース	-	0	0	0	0	0	0	3
アプリケーションエンジニア	-	0	0	0	0	0	0	3
システムエンジニア	-	0	0	0	0	0	0	3
合計		11	41	36	3	3	1	112

■効果項目:人財戦略に適合した業務割り当ての実施

【効果の概要】

組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスク遂行力を向上させるための業務を優先的に割り当てることができるようになった。

【具体的な効果】

- 役割毎にタスク遂行力を向上させるための詳細タスクを定義しているため、必要なレベルに到達させるためには、どのようなタスクを与えればいいのか容易に把握することが可能になった。
- 人財戦略に沿って育成を進める際、育成に必要なタスクを把握し、そのタスクを実行できる業務を優先的に割り当てることができるようになった。

【関連資料】

タスク	Level1 (タスク遂行力1)	Level2 (タスク遂行力2)	Level3 (タスク遂行力3)	Level4 (タスク遂行力4)	Level5 (タスク遂行力5)	レベル	操作
DB物理設計	*	*	2016年				
共通部品設計	*	*	2016年				
プログラム仕様設計	*	*	2016年				
テスト方式設計	*	*	2016年				情報あり
運用ツール設計	*	*	2016年				情報あり

計画達成年度を設定する

当年度実施すべきタスクの詳細が表示される。

6. iCD取組みの効果(4/5)

■効果項目:人財戦略に適合したスキル向上の実施

【効果の概要】

組織の人財戦略実現に必要なタスクが明確になり、当該のタスクに関連するスキルを向上させるための施策(OJT、教育、自己啓発)を的確に実施できるようになった。

【具体的な効果】

・人財戦略に沿って育成を進める際、育成に必要なタスクを把握し、そのタスクに関連するスキルを洗い出すことにより(現在は手作業)、本当に必要なOJT、教育や自己啓発を効果的に実施できるようになった。

■効果項目:キャリアフレームワークに沿ったタスク遂行力向上の実施

【効果の概要】

キャリアフレームワークに沿った当年度のタスク遂行力向上施策を策定し、実施できるようになった。

【経緯】

・個人別の育成計画を策定する際、現在能力として何が不足しており、将来の役割としてどのような方向へ向かえばいいのかを判断するよりどころがないため、具体性に欠けるものになりがちであった。

【具体的な効果】

・役割とタスク遂行力のマトリクスをキャリアフレームワークとして定めることにより、これに沿った具体的なタスク遂行力向上施策を策定し、実施することができるようになった。

【関連資料】

株式会社エスエスエス
株式会社エスエスエスキャリアセンター

キャリアアップシート

所属 〇〇課
部署 〇〇班
担当 〇〇君

中長期計画(5年程度)

目標	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
〇〇業務のスキル向上	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の効率化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の自動化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の標準化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の改善	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の最適化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の高度化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の専門化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の複合化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の多岐化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の広域化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の国際化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のグローバル化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のデジタル化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のAI化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のクラウド化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のモバイル化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のIoT化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のビッグデータ化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のブロックチェーン化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務の量子化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のナノ化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のマイクロ化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のメゾ化	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇業務のマクロ化	〇	〇	〇	〇	〇

目標設定

2021年度 〇〇業務のスキル向上
2022年度 〇〇業務の効率化
2023年度 〇〇業務の自動化
2024年度 〇〇業務の標準化
2025年度 〇〇業務の改善

今年度計画(数ヶ月)

項目	達成状況	達成予定	達成時期
〇〇業務のスキル向上	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の効率化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の自動化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の標準化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の改善	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の最適化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の高度化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の専門化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の複合化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の多岐化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の広域化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の国際化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のグローバル化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のデジタル化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のAI化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のクラウド化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のモバイル化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のIoT化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のビッグデータ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のブロックチェーン化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の量子化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のナノ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のマイクロ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のメゾ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のマクロ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日

今年度計画(数ヶ月)

項目	達成状況	達成予定	達成時期
〇〇業務のスキル向上	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の効率化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の自動化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の標準化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の改善	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の最適化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の高度化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の専門化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の複合化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の多岐化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の広域化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の国際化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のグローバル化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のデジタル化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のAI化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のクラウド化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のモバイル化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のIoT化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のビッグデータ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のブロックチェーン化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務の量子化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のナノ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のマイクロ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のメゾ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日
〇〇業務のマクロ化	〇	〇	〇〇年〇月〇日

目標達成

- 〇〇業務のスキル向上: 〇〇業務のスキル向上を達成し、業務効率を向上させること。
- 〇〇業務の効率化: 〇〇業務の効率化を達成し、業務コストを削減すること。
- 〇〇業務の自動化: 〇〇業務の自動化を達成し、業務負担を軽減すること。
- 〇〇業務の標準化: 〇〇業務の標準化を達成し、業務品質を向上させること。
- 〇〇業務の改善: 〇〇業務の改善を達成し、業務生産性を向上させること。
- 〇〇業務の最適化: 〇〇業務の最適化を達成し、業務コストを削減すること。
- 〇〇業務の高度化: 〇〇業務の高度化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務の専門化: 〇〇業務の専門化を達成し、業務品質を向上させること。
- 〇〇業務の複合化: 〇〇業務の複合化を達成し、業務生産性を向上させること。
- 〇〇業務の多岐化: 〇〇業務の多岐化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務の広域化: 〇〇業務の広域化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務の国際化: 〇〇業務の国際化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のグローバル化: 〇〇業務のグローバル化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のデジタル化: 〇〇業務のデジタル化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のAI化: 〇〇業務のAI化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のクラウド化: 〇〇業務のクラウド化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のモバイル化: 〇〇業務のモバイル化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のIoT化: 〇〇業務のIoT化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のビッグデータ化: 〇〇業務のビッグデータ化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のブロックチェーン化: 〇〇業務のブロックチェーン化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務の量子化: 〇〇業務の量子化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のナノ化: 〇〇業務のナノ化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のマイクロ化: 〇〇業務のマイクロ化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のメゾ化: 〇〇業務のメゾ化を達成し、業務競争力を向上させること。
- 〇〇業務のマクロ化: 〇〇業務のマクロ化を達成し、業務競争力を向上させること。

6. iCD取組みの効果(5/5)

■効果項目:タスク遂行力向上成果の可視化

【効果の概要】

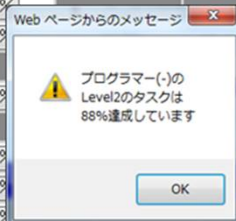
iCD管理ツールにより、個人ごとのタスク遂行力向上施策による成果を、数値で把握できるようになった。

【具体的な効果】

・iCD管理ツールを活用することにより、個人ごとのタスク遂行力やタスク習得状況が把握できるため、過去分との比較により成果を数値で出せるようになった。

【関連資料】

役割	専門分野	タスク遂行力1	タスク遂行力2	タスク遂行力3	タスク遂行力4	タスク遂行力5	タスク遂行力6
		Level1	Level2	Level3	Level4	Level5	Level6
セールスエンジニア	-				<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
ITアーキテクト	-				<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
プロジェクトマネージャー	-				<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
上級アプリケーションエンジニア	-			<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		
アプリケーションエンジニア	-		<input checked="" type="checkbox"/> %	<input checked="" type="checkbox"/> %			
プログラマー	-	<input checked="" type="checkbox"/> %	<input checked="" type="checkbox"/> %				
ITサービスエンジニア	-	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %		
上級インフラエンジニア	-				<input type="checkbox"/> %		
インフラエンジニア	-	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %		
データサイエンティスト	-					<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
データアナリスト	-	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %		
組み込みシステムエンジニア	-	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %		
研究開発エンジニア	-	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
ビジネスプランナー	-			<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %
ビジネスサポーター	-	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		
プロダクトセールス	-		<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %	<input type="checkbox"/> %		



■効果項目:モチベーションアップ

【効果の概要】

将来のキャリアパスを描くことができ、また求められるタスクも明確になることで、自己の能力向上に対するモチベーションアップを図ることができた。

【具体的な効果】

・自分の伸ばすべきタスクが明確になり、その成果が客観的に評価されるため、社員一人ひとりの能力向上に対するモチベーションがアップした。